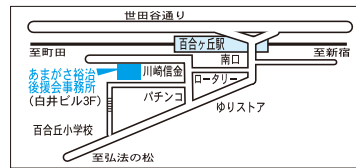




発行所／
みらい川崎市議会議員団事務局
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地 川崎市役所第二庁舎内
TEL:044-200-3355 FAX:044-245-4135

百合丘事務所／
〒215-0011
川崎市麻生区百合丘1-20-7 白井ビル3F
小田急線百合ヶ丘駅下車徒歩1分
TEL・FAX:044-955-2417
メール: amagasa@khaki.plala.or.jp



ホームページ: <https://www.e-amagasa.net> Facebook、Twitterでも情報発信しています



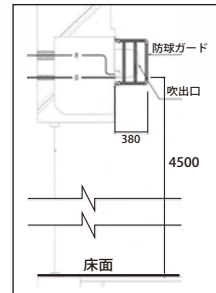
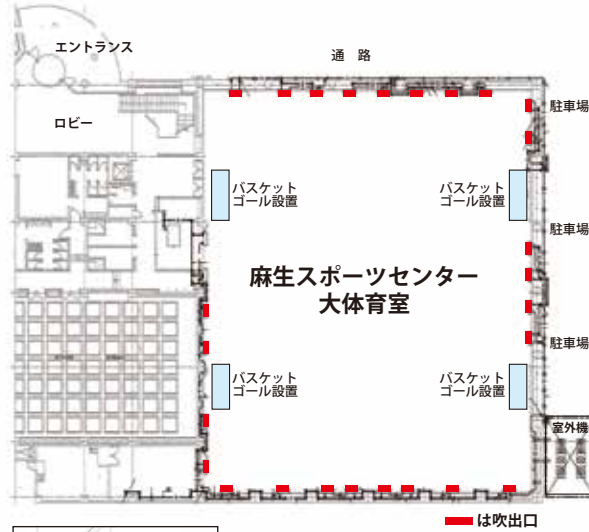
麻生スポーツセンターに念願のエアコン導入!

各スポーツセンターの冷暖房稼働中の換気対策の在り方についても調査を要請

時間がかかりましたが長年にわたり陳情してきました麻生スポーツセンター大体育室の冷暖房の空調設備(事務室で集中リモコンで管理する28台)が設置されることとなりました。令和4年10月1日～令和5年3月31日までの期間での工事予定で進んでいます。利用団体の皆様から新型コロナウイルス感染の状況を考えて換気についての配慮ができていないのか不安のご意見を頂きました。そこで6月に市民スポーツ室とまちづくり局機械設備担当の責任者と協議をしました。

今回設置する空調は、予算が高額になる吸排気対応型ではないことがわかりました。現在設置済みの換気システムは、屋上の送風機で1時間かけて大体育室の換気ができるようになっていますが、それでは利用時間の点や競技の種別(スポーツによって空調による風の流れが良とされない)によってうまく使用して頂けるか工夫が必要になることを指摘しました。

市の担当者からは麻生スポーツセンターの指定管理者も含めて、よりよい換気のあり方について検討しマニュアルを作成し運用できるようにする、との考えが示されました。あわせて各区スポーツセンターの冷暖房稼働中の換気対策のあり方も調査を要請しました。



◀ 吹出口の設置位置も床面から4500ミリで、十分な高さの位置に設置できます

※現在生じている機器の不足などで、入札不調の場合は時間がずれる可能性あり

横浜市営地下鉄3号線
延伸による
麻生区のまちづくり

2面にまちづくり特集
麻生区のまちづくりに
皆様のご意見を!



川崎市議会議員

あまがさ 裕治

将来を見越した川崎市の緑を最適化する予算・体制の強化を

広域連携によるナラ枯れ対策と川崎市の緑の維持管理について

●あまがさ裕治

麻生区は市内でも有数の、自然な里山が残る緑が豊かな地域です。また、横浜市および多摩市、稲城市、町田市といった東京都に囲まれた特異な地形を形成しています。「ナラ枯れ」を例にとっても、樹木、虫の問題は隣接する地域との協働が欠かせません。さらに、そもそも論として、ナラ枯れを招いた里山の荒廃問題についても、綿密な協働があってしかるべきですが、これまでのナラ枯れを含めた連携はどうでしょうか?

■建設緑政局長

川崎市は、神奈川県が実施するナラ枯れの被害や対策についての研修や会議に参加し、他都市の状況の把握を行っているほか、近接する自治体に対して、ナラ枯れの被害や対策状況について、適宜、情報共有を行っています。今年度は、本市を含む九都県市において、首脳会議の合意に基づき、ナラ枯れ被害対策の推進について、国に要望を行っています。

●あまがさ裕治

九都県市や神奈川県という括りでも、ナラ枯れ対策は重要な議題です。本市が中心となって進めている多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議は16年目を迎えています。首都圏における連続している丘陵にとって重要な役割を担っています。ナラ枯れのような重要課題の解決に対して取り組むべき貴重な緑政群であるといえるのです。

連携会議におけるナラ枯れの実務的取り組みも、正式な議題としてとりあげ協議をすべきだと考えています。

■建設緑政局長

本会議は、みどりはつなぎ手というキーワードのもと、関係する13自治体が連携し、多様な主体との協働による広域的な緑と水景の保全・再生・創出・活用を目的に取組を進め、これまでもナラ枯れ対策について情報共有を行っています。今後も引き続き広域的な緑のつながりの視点を活かして連携を図っていきます。

●あまがさ裕治

平成22(2010)年川崎市では行財政改革の取り組みとして、環境局緑生部を建設局とあわせて組織改正を行いました。4つの公園事務所が廃止され、各区道路公園センターに公園や街路樹など維持管理をはじめ機能が移管されました。川崎市の南中北西各ブロック別での維持管理は、一定の特性を持つ範囲の管理という点から考えれば意味のある対応であったと思います。行革によって地域の緑の特性を考えた維持管理の体制が弱くなってきているのではないかと憂慮しています。特にここ数年、本市の緑の管理の悪さを指摘する市民の声が増加しています。市民の満足度は、まちの美観と直結していると言えます。将来を見越した川崎市の緑を最適化する予算及び体制の強化について市長の見解を伺います。

■福田市長

これまで、市民にとって身近な道路、河川、公園、緑地等の整備を一体的に行い、豊かで潤いのある、より良好な都市環境を形成するため、建設緑政局及び道路公園センターを設置し、市民ニーズへの対応

に取り組んできました。今後も、効率的・効果的な体制で取組を着実に進めていきます。

また、近年の社会環境の変化や、市民の価値観の多様化に伴い、緑の新たな役割や、価値の創造に向け適切な対応が求められていますので、令和6年度に開催する「都市緑化フェア」を契機に、より一層、市民、企業と連携しながら、取組を進めていきます。

市長に要望と提案を行いました
きれいな街は市民の満足度に直結する重要課題

平成22年、4つの公園事務所が廃止され、各区道路公園センターに移管されましたが、市全体で人員は約400名から350名へと削減されました。

現在までの13年間で人口は約14万人余も増加しました。14万人とは海老名市の人口に相当します。陳情も当然増加しますので、相応の体制と予算を強く要望します。また、管理のできない特別緑地保全地区公有地化が、691haから758haと、10%も増加したこともナラ枯れの拡大を生んだ、という自覚を持って欲しいと考えます。

●あまがさ裕治 市長への提案●

- 1, 今後、環境アセスメントに関する評価には、緑の増減だけではなく、5年後10年後といった将来に残せる緑のあり方を加えるべき
- 2, 緑地保全協定に当たっては、極力大径化した樹木を整理してから受け渡しに不備をなくすることを検討すべき

圧倒的立地の優位性で人が集まるまちへ

6月市議会で「ブルーライン延伸事業」「まちづくり方針」を質問

「鉄道事業法に基づく許可」「環境影響評価」

●あまがさ裕治

ブルーライン（横浜市高速鉄道3号線）の延伸事業の現在進められている事務手続きの名称と内容、さらに交渉が必要とされる手続きであれば交渉主体はどうなっていますか？

■交通政策室

鉄道事業許可取得は、鉄道事業者が国土交通省による鉄道事業の許可を得る手続きで、横浜市交通局が主体となり、国や関係機関と協議調整を行っています。環境影響評価については、横浜市環境影響評価条例に基づく「配慮書」の手続きを令和2年度に実施し、現在「配慮市長意見書」を踏まえ、「方法書」の手続きに向けた準備を横浜市交通局が主体となり進めています。

新百合ヶ丘駅周辺まちづくり方針策定について

●あまがさ裕治

鉄道と鉄道が交わるような大きな経済活性化を背景にする再開発気運の高まりの中における方針策定には、民間事業者や市民の意見を最大限取り入れ、方向性が固まり次第フレキシブルに決定す

べき、と提言しましたが進捗は？

■交通政策室

新型コロナウイルス感染症の影響により社会ニーズ等が変化中、今後のまちづくりの検討の視点や進め方を「基本的な考え方」として示しながら、地権者や新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムなどとの意見交換を継続して実施し、都市機能の更なる集積や交通環境の改善等について検討を進めています。

今後のスケジュールについては、地権者などの御意見や駅周辺の開発動向等を踏まえながら、本年中に、新百合ヶ丘駅周辺を含む、根幹的な都市計画の方針を定める「都市再開発方針」等の見直しに着手するとともに、ハード・ソフト両面から総合的な検討を進め、令和6年度の「まちづくり方針」の策定を目指します。

ヨネッティー王禅寺付近の中間駅について

●あまがさ裕治

周辺に市街化調整区域が多いことや防音壁が建築されている沿道などの現況を含め非常に難しい問題があることを指摘してきました。すでに鉄道

事業許可の交渉中ということを見ると、まちづくりの方針を早急に打ち出しておく必要がありますが現段階での方向性について副市長の見解は？

■藤倉副市長

ヨネッティー王禅寺付近のまちづくりについては、都市計画マスタープランにおいて、「幹線道路沿道エリア」として位置づけ、良好な住環境と生活を支える商業施設などが調和した街並みの形成や、沿道建築物の不燃化などを計画的に進めてきました。

中間駅の整備については、概略ルート・駅位置の決定に際し示した当該付近のまちづくりの方向性の中で、交通結節機能の強化等による川崎北部地域の公共交通ネットワークの充実や駅周辺の活性化に資するまちづくりを進めます。今後は延伸計画の進捗状況を踏まえつつ、周辺に立地する市民利用施設等との連携による駅周辺の活性化に向け、関係者等との協議を行うとともに、早期のまちづくり方針策定に向け取組を進めていきます。

●要望 あまがさ裕治

新百合ヶ丘駅周辺まちづくり方針策定については令和6年度までに作成するとの答弁でしたが、民間計画が進んでいけばフレキシブルに作業を進めていくことが確認されました。

中間駅まちづくりの検討の際にはヨネッティー付近の道路渋滞や車線規制の整理なども十分配慮するよう要望しました。

区をあげて、新百合ヶ丘駅周辺と山口台住宅地の維持管理を「ふるさと麻生八景」大切にしていきたい麻生区の景観

麻生八景の詳細は、区のホームページを参照「麻生八景」で検索



●あまがさ裕治

次世代に受け継いで生きたい麻生魅力を八つの視点で見つめ、選定された12か所は麻生区の魅力ポイントです。主なものは里山や歴史的建造物ですが、その中でも特筆されるのは、まちなみとしての「新百合ヶ丘駅周辺」と「山口台住宅街」です

新百合ヶ丘駅周辺は新百合ヶ丘駅周辺都市景観形成地区、これは万福寺の農住都市構想において区画整理事業が行われたところで、平成10年度にはこの駅周辺の景観形成が「都市景観100選」に選ばれています。この都市景観大賞は、全国の都市景観に対する様々な取組事例から特に優れたものを国土交通大臣が表彰する制度です。

山口台住宅地は、「緑と文化の香り高いアメニティ・タウン」として、自治管理組合が結成され、街づくりに積極的に取り組んでいる。住宅街の統一された街路樹や白いタイルが美しい街並み。春にはサツキ

が道路脇や家の前に一斉に咲き、豊かな暮らしを演出している」と記されています。バブル期には坪400万円超えといった日本でも有数の良好な住宅街とされていました。

しかし、時間の経過とともに、美観を構成している象徴でもある新百合ヶ丘駅周辺のペDESTリアンデッキのタイルや、山口台の生活道路に散りばめられている白いタイルが老朽化し、欠損部分の修復ができず、景観が崩れてしまう恐れがあります。道路公園センターも維持管理に大変苦勞をしている現状がありますが、ふるさと麻生八景を守る観点からも、麻生区全体の問題として対応すべきです。

■麻生区長

ふるさと麻生八景は、麻生区の魅力を「麻生の新し



▲タイルの補修も景観への配慮が必要

さを感じる」「麻生区の暮らしを楽しむ」等の8つのテーマに分け、12か所の地域について、「平成16(2004)年度 麻生区魅力ある区づくり事業」で選定したものです。

その後、新百合ヶ丘駅周辺においては芸術系の大学やホールなどができ、区民と区役所が連携して音楽イベントなどを開催し、良好な景観と賑わいの創出により、魅力的なまちづくりが進められました。山口台地区については、緑と文化の香り高いアメニティ・タウンとして、地域で環境保全協定を定め、街並みの景観維持・保全や地域緑化の活動など身近な環境づくりに積極的に取り組んでおり、区役所としても、住民の皆さまの主体的な活動を支援しています。麻生八景をはじめとする様々な景観は、麻生区の魅力を織りなす貴重な地域資源であり、これらの資源が引き続き活かされることが重要と考えています。関係局とも連携を図りながら、町内会・自治会や各種団体の支援を行い、区民の皆さまがまちに愛着と誇りを持ち、誰もがぐらしやすいまちづくりを進めたいと考えています。

●提案 あまがさ裕治

関係局とも連携を図るとの答弁でしたが、上下水道局の管路の耐震化による工事の際に実施される白タイルの復旧も検討に加えることを提案します

水処理センター多目的広場にトイレ新設

麻生水処理センター多目的広場横の仮設トイレについて、きちんとした公衆トイレにして欲しいとの要望が利用団体の皆様からだされていました。上下水道局と交渉して昨年予算化しましたが入札が不調となっていました。

この度ようやく契約がなされ盆踊り後の8月から工事を開始することが決まり10月から新設トイレの供用開始予定となりましたので報告します。

	令和4年度												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
工事	契約(5/20)		工事準備及びユニットトイレ制作期間			現場作業期間						検査	
トイレ状況他	既存NPOトイレ使用可能期間				納涼祭り(7/23雨天順延)		NPOによる既存トイレの撤去(予定)		トイレ使用不可				10月～新設トイレ使用可能

水処理センター内麻生ふれあいの広場屋外トイレ新築工事



▲既存トイレ



▲新設トイレ